

事業番号 1

事業名 貧困農民支援(無償資金協力)

評価結果

◆事業全体の抜本的改善

集計結果

- | | |
|--------------|----|
| ・ 現状通り | 2名 |
| ・ 事業内容の改善 | 1名 |
| ・ 事業全体の抜本的改善 | 3名 |

とりまとめコメント

●援助の目標設定や効果測定が不十分であり、PDCAサイクルの確立を含めた有効な援助の仕組みを整備すべく、援助のあり方を抜本的に見直すべき。

(一旦廃止すべきとの意見も2名あった。)

●相手国政府による事業成果の報告の徹底等を含め、見返り資金のあり方についても、見直しが必要。

評価者のコメント

- 事業内容については今後も継続する意義が高い。但し、事業をどのように評価し、次のステップにつなげるかについては、今後検討の余地が高い。
- 説明しづらいものについて説明しやすくする努力が必要。絶望的な状況にある人を救うことは、一定程度必要であり、その点は評価できる。
- 見返り資金積立口座の内容の公開の促進など、相手国政府による事業成果の報告を一層徹底させることが必要であろう。
- 予算に限りがある以上、我が国自身の資源開発や食料安全保障に資する国家(の農民)を優先的に支援することが、tax payer の理解を得るためには、やむを

得ないと思われる。

- 1977年から6900億円を投入している事業としては、驚くほど効果測定がなされていない。
- 見返り資金のスキームは問題が多いので、見直す必要がある。
- 貧困者の支援と小規模農家の支援は分けて考えた方がいいのではないか。
- 肥料と農業機械に限定するのをやめて、マイクロファイナンスなど多面的な手法を採用してはどうか。
- 6900億円の効果が全く見えないが、6900億円の総括をして、その効果、援助理由を明確にすべきである。
- 明確な目標がないままに、個人に資源や金銭を分配するのはバラマキにつながり易い。
- 効果が現れない事業にODAを投入するという論理はありえない。
- 事業としての体系性ができておらず、目標も不明確であり、一旦本事業を閉じて、総括して、プログラムとして組み立て直して、実施の可否を決めるべき。
- 貧困農民支援が、なぜ肥料・農業機械に限定されるのか。2KRの看板の掛け替えにすぎないのでは。
- 別枠として貧困農民支援無償を置く意味が見出せず、廃止して一般無償に統合すべき。
- 政策目的もあいまいすぎる。貧困削減なのか、食糧増産なのか。
- プログラムアプローチ、ノンプロジェクト型援助の評価枠組みが不在。枠組みを確立すべき。
- 見返り資金のあり方、評価方法を抜本的に見直すべき。